

シリーズ われらイキイキ専修人

山形県信用保証協会
本店営業部保証第一課主事

高橋勇人さん

大学での経験を糧に、
ふるさと山形に恩返しを



職場のある霞城セントラルにて

たかはし ゆうと

1994年、山形県南陽市生まれ。2013年、山形県立長井高校卒。2017年、専修大学法学部法律学科卒。山形県信用保証協会に入協。趣味は古着屋巡りなど。

中小企業の公的な保証人として、資金調達をサポートする山形県信用保証協会に働く高橋勇人さん。「ふるさとに恩返しをしたい」という思いでUターン就職をして、山形で迎えた5年目の春。地域経済を陰で支える仕事に、充実した日々を過ごす。

JR山形駅前にひと際高く聳えるビル、霞城セントラルの中に、高橋勇人さんの働く山形県信用保証協会はある。

「故郷の活性化に貢献したい」

そんな思いでUターン就職して5年目の春を迎えた。高橋さんは保証協会に保証審査業務に従事する。「目には見えない企業の信用力を発掘することで、資金調達の円滑化を図るのが保証協会の役割です。パートナーである金融機関の担当者と話し合いながら、融資を受ける企業にとって良い結果につながれ

ば嬉しいです」

地域経済の活性化にとってなくてはならない存在だ。コロナ禍により資金繰りに窮する企業も少なくない現在、保証協会の役割は増す。中小企業のセーフティネットとして、「より使命を感じる」と話す。

多様な価値観に触れた学生時代

山形県の南東部に位置する南陽市の出身。「鶴の恩返し」の民話が伝わる里としても知られる土地だ。



↑学部の友人との内定祝い旅行 in 伊豆 (後列左から3人目)



↑ゼミの友達との卒業旅行 in 韓国 (左から2人目)

小学校も中学校も1学年に1クラスしかない、そんなのどかな環境で育った。

大学進学の際は、「広い世界を見た方がいい」と父から都心の大学への進学を勧められ、専修大学法学部に進学した。

神田キャンパスに近い、東京の中心での一人暮らし。それまで、祖父母、父母、姉と過ごした賑やかな家庭とのギャップは大きかった。

「最初はすごく寂しかったです。しかし、大学で友達ができ始め、知り合いも増えていくと、大学生活はすごく楽しくなりました。大学には育った環境も考え方もまるで違う人が集まっていて、多様な価値観に触れることができました。刺激し合い、尊敬できる友達たちと出会えた大学生活は、一生の財産だと思っています」

サークルはボランティア団体SKVに所属し、地域住民に向けた救命講習会や高校生に向けた防災授業などの運営に携わった。夏期休暇中には、東日本大震災の復興支援のために石巻市を訪れて、清掃活動や子供たちとの交流活動を行った。

居酒屋でのアルバイトも「大きな経験」だった。「接客では元気な対応を心掛けることで、店員やなじみ客と信頼関係を築くことができました」

地域経済の発展に寄与する喜び

すっかりなじんだ東京を離れるのは名残惜しかったが、Uターン就職を選んだ。「ふるさと山形に貢献したい」という思いがあったからだ。

山形でスタートした社会人生活。今振り返ると、新人時代は「未熟さを痛感する」という。

「1、2年目は金融機関の方ともコミュニケーションが十分に取れていませんでした。知識不足で、マニュアルに書いてあることを答えるだけで、お客様



↑本店営業部保証第一課で(中央)

や金融機関など、相手の立場に立って対処するという本質的なことをわかっていませんでした」

時には失敗もしながら仕事を一つ一つ覚えていった。キャリアを重ねた今、「この仕事に就いてよかった」と思う。

「上司や先輩方はまじめで紳士です。そして自分たちが、中小企業を支えていくんだという情熱が感じられます。そういう人に囲まれて、自分の意欲も高まってきました。社会貢献度の高い仕事ができていると実感しています」

決算書の数字だけでは見えない企業の将来性、返済の見通しなどを総合的に見て、保証の可否を審査する。時には企業を訪問し、経営者と面談し、熱意、将来の計画性などを推し量る。

創業間もない企業だと、実績もなく融資を受けづらい。そうした企業の将来性を適正に判断するのも重要な使命だ。自身が保証担当した企業がその後、成長していくのを目にして思う。

「夢の実現に携われ、微力ながら地域経済の発展に寄与できたことに、喜びを感じます」

今後は、さらにステップアップを目指して、中小企業診断士の資格取得を目指そうと考えている。そしてこの夏、長らく遠距離で交際を続けた専修大学の同窓と結婚する。